

地元就職促進に関する調査研究報告書

(簡略版)

調査の概要

内容：地元就職促進に関する調査研究

調査目的：若年層の進路意識に関する基礎資料の収集

調査期間：2016年11月1日～11月30日

調査対象：姫路市内の高校に通う生徒、大学に通う学生

調査協力校：兵庫県立姫路西高等学校（西高）、兵庫県立姫路東高等学校（東高）、兵庫県立姫路南高等学校（南高）、姫路市立飾磨高等学校（飾磨高）、姫路市立姫路高等学校（姫路高）、姫路市立琴丘高等学校（琴丘高）、兵庫県立大学（県大）、姫路獨協大学（姫獨大）

調査方法：質問紙による集合調査法

分析対象回答数：1,202名

分析対象回答数内訳：西高 155名、東高 133名、南高 139名、飾磨高 153名、
姫路高 149名、琴丘高 123名、県大 224名、姫獨大 126名

平成 29 年（2017 年）3 月

姫路市 市長公室 地方創生推進室

〒670-8501 兵庫県姫路市安田四丁目 1 番地 TEL (079) 221-2832

この調査報告書について、さらに詳細に知りたい場合は、
下記アドレスにて「全体版」を掲載しています。

http://www.city.himeji.lg.jp/s10/2212381/_33984.html

Q1：将来やりたい仕事がある

高校生も大学生も共通して、「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせると7割程度が将来やりたい仕事があると回答している。

「あてはまる」と答えた高校生の割合は、西高が38%、東高が28%、南高が48%、飾磨高が42%、姫路高が44%、琴丘高が52%となっている。東高がやや低めの割合を示しているのは、2年生のみの回答者だったことの影響や、他校のキャリア教育と異なっている可能性を示唆している。

「あてはまる」と答えた大学生の割合では、県大が23%に対して、姫獨大は54%と2倍以上の開きが観察された。県大生は、大学院進学希望者が姫獨大生よりも相対的に多いため、将来に仕事について思案中の学生が多いことが推察される。

表1 将来やりたい仕事がある（単位：％）

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
西高	38	31	15	10	6
東高	28	38	14	13	7
南高	48	27	12	7	6
飾磨高	42	28	11	9	10
姫路高	44	24	18	6	8
琴丘高	52	30	6	5	7
県大	23	43	18	12	4
姫獨大	54	19	14	5	8

「将来やりたい仕事がある」という傾向が強い姫獨大に注目すると、特に、理系の大学生は67%が「あてはまる」と回答し、「ややあてはまる」の23%と合わせると90%が明確な将来設計を描いていることがわかる。

表2 姫獨大文理別：将来やりたい仕事がある（単位：％）

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
理系	67	23	2	2	6
文系	31	24	25	8	12

Q2：国際的な仕事がしたい

高校生は、各校で異なる傾向を示している。「あてはまる」と「ややあてはまる」を合算すると、西高は38%、東高は34%、南高は25%、飾磨高は19%、姫路高は29%、琴丘高は24%となっている。西高と東高で、国際的な仕事に高い関心が認められる。これに対し、「あてはまらない」と「ややあてはまらない」を合算すると、西高は34%、東高は40%、南高は45%、飾磨高は56%、姫路高は45%、琴丘高は48%となっている。飾磨高や琴丘高の国内志向が強く認められる。

表3 学校別：国際的な仕事がしたい（単位：%）

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
西高	15	23	28	21	13
東高	9	25	26	20	20
南高	11	14	30	20	25
飾磨高	3	16	25	24	32
姫路高	9	20	26	14	31
琴丘高	6	18	28	20	28
県大	7	22	32	26	13
姫獨大	9	13	36	17	25

県大生は、正規分布に近い分布を描いており、際立った特徴を示していないが、姫獨大生は、全般としては、国際的な仕事をやや敬遠する傾向を見せている。しかし、姫獨大生を理系と文系で分類したところ、姫獨大の文系は、「あてはまる」と「ややあてはまる」に29%が回答したのに対し、理系は14%に留まっている。文系の18%に対し、理系の33%が「あてはまらない」と回答しているのも対照的で、文系学生は、むしろ国際的な仕事に関心が高いことがうかがえる。ここでは、海外居住を明確に問うことをしていないが、国際的な仕事が地元でできることを訴求することも、地元定住の促進につながる可能性を示唆している。

表4 姫獨大文理別：国際的な仕事がしたい（単位：%）

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
理系	8	6	39	14	33
文系	11	18	31	22	18

Q3：専門性の高い仕事をしたい

「あてはまる」と「ややあてはまる」が約 6 割を占める結果が各高校で共通してみられる。働こうとする時期が訪れると、専門性の高い仕事に就きたいという意思を感じさせる者が多数派となっており、「ゼネラリストというよりはスペシャリストになりたい自分」というアイデンティティを確立しつつある姿がみえる。

表 5 学校別：専門性の高い仕事がしたい（単位：％）

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
西高	26	35	28	5	6
東高	19	33	32	13	3
南高	30	26	30	9	5
飾磨高	23	37	24	8	8
姫路高	29	25	27	11	8
琴丘高	35	26	26	6	7
県大	28	44	22	4	2
姫獨大	34	26	29	6	5

県大の回答者は、工学部と理学部の学生で構成されていることから、7 割超が「あてはまる」または「ややあてはまる」と答えている。

姫獨大の理系の 55%が「あてはまる」と回答し、「ややあてはまる」の 27%を加えると 82%が専門性の高い職種に進みたいという意思を示しており、薬学部生の進路の明確さが際立つ結果となった。これに対して、文系はそれぞれ 17%と 26%であり、強い意思をもって専門性を追求するのではなく、柔軟に将来を描いている様子が見える。

表 6 姫獨大文理別：専門性の高い仕事がしたい（単位：％）

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
理系	55	27	14	4	0
文系	17	26	40	9	8

ここで、高校生の理系と文系での傾向の違いを探ると、理系で「あてはまる」と回答したのが 36%に対して、文系では 19%と約 2 倍の開きがある。「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせると、それぞれ 69%と 47%とその差は縮まる。逆に「あてはまらない」と回答した理系は 4%に過ぎず、文系の 8%とはこちらも対照的である。「あまりあてはまらない」と「あてはまらない」を合算しても、理系が 10%、文系が 19%と同様の傾向を示している。理系は専門性の高さを感じ、文系は出口の広さを予想している様子が見える。

表 7 高校生文理別：専門性の高い仕事がしたい（単位：％）

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
理系	36	33	21	6	4
文系	19	28	34	11	8

Q4：将来独立起業したい

高校生の独立起業志向は高くない。しかし、特に「あてはまらない」と回答した割合は、各校で大きく乖離している。西高が 27%であるのに対し、飾磨高が 40%、南高が 45%、東高が 39%、姫路高が 49%、琴丘高が 36%となっている。西高では、どこかに所属して活躍する自分をイメージする者が多いのに対して、姫路高では、相対的に起業家精神を備えた者が多いようである。

県大生も同様で、「あてはまる」と「ややあてはまる」が 10%と少数派である。「あてはまらない」40%と「ややあてはまらない」26%を合わせると、66%が消極的である。しかし、姫獨大は、それぞれ 25%と 49%と、やや傾向が異なっており、独立起業を思い描く学生が少なからず存在している。

表 8 学校別：将来独立起業したい（単位：％）

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
西高	3	6	34	30	27
東高	2	6	27	26	39
南高	6	8	22	19	45
飾磨高	3	7	26	24	40
姫路高	6	6	23	16	49
琴丘高	5	14	26	19	36
県大	1	9	24	26	40
姫獨大	14	11	26	20	29

Q5：仕事をする自分がイメージできない

高校生は、各校の結果に大きく異なる傾向が観察される。「あてはまる」だけを比較すると、西高 6%、東高 14%、南高 7%、飾磨高 14%、姫路高 20%、琴丘高 10%であり、最少の西高と最多の姫路高には 3 倍以上の乖離が認められる。「あてはまる」と「ややあてはまる」を合算すると、西高 29%、東高 38%、南高 23%、飾磨高 43%、姫路高 32%、琴丘高 27%となり、最少が琴丘高、最多が飾磨高と変化する。

大学生も、高校生と概ね同様の傾向を示しているが、仕事をする自分がイメージできる者とそうでない者の違いは、所属学部や専攻によって、職種をイメージしやすい場合とそうでない場合があるのかもしれない。

表9 学校別：仕事をする自分がイメージできない（単位：％）

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
西高	6	23	25	30	16
東高	14	24	24	25	13
南高	7	16	29	24	24
飾磨高	14	25	20	21	20
姫路高	20	12	25	15	28
琴丘高	10	17	26	21	26
県大	10	24	23	26	17
姫獨大	18	18	27	15	22

表10 姫獨大文理別：仕事をする自分がイメージできない（単位：％）

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
理系	16	18	29	14	23
文系	18	20	23	17	22

Q6：親と就職の話をよくする

高校生の分布には、学校別の差異はほとんど認められない。そして、親子間の会話が少くないというわけではなさそうである。

県大と姫獨大の結果には、異なる傾向がみられる。「あてはまる」と回答した割合は、県大が12%に過ぎないのに対して、姫獨大は21%であり、「ややあてはまる」まで含めると、43%と41%と逆転する。学生の特性や専攻の違いが反映されている可能性が考えられるが、その理由を明確に推定することはできない。

姫獨大の文系と理系の間には異なる傾向が認められる。「あてはまる」と回答した文系学生の割合は14%だが、理系学生は27%である。「ややあてはまる」まで含めると、43%と37%に逆転する。また「あてはまらない」と回答した文系学生は5%に過ぎないが、理系学生は27%に上っている。文系の場合、就職先の幅が広いと、親と相談する機会が多いのかもしれない。理系の場合、特に薬学部生は、就職先がある程度限定されることから、その限られた進路について親と相談する場合と、進路が限定されているから親と相談することもない場合が考えられる。

表 11 学校別：親と就職の話をよくする（単位：％）

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
西高	15	31	23	17	14
東高	14	37	21	16	12
南高	14	27	28	18	13
飾磨高	14	29	26	18	13
姫路高	16	29	29	10	16
琴丘高	19	29	19	19	14
県大	12	31	25	21	11
姫獨大	21	20	31	14	14

表 12 姫獨大文理別：親と就職の話をよくする（単位：％）

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
理系	27	10	24	12	27
文系	14	29	35	17	5

Q7：親は「好きにきなさい」と言う

親の関与の程度は全般的に少ないが、高校間に差異が認められる。「あてはまる」は、西高 27%、東高 32%、南高 35%、飾磨高 28%、姫路高 44%、琴丘高 37%に対し、「あてはまらない」は、それぞれ、9%、2%、4%、4%、8%、6%となっている。親の干渉の程度も、校風に反映されている可能性がみうけられる。

大学間にも小異が認められる。県大の学生が「あてはまらない」と回答した割合が 5%だったのに対して、姫獨大の学生は 10%だった。「あてはまる」は 23%と 25%とあまり変わらない。

表 13 学校別：親は「好きにきなさい」と言う（単位：％）

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
西高	27	29	26	9	9
東高	32	34	24	8	2
南高	35	25	24	12	4
飾磨高	28	28	25	14	5
姫路高	44	18	22	8	8
琴丘高	37	27	20	10	6
県大	23	32	27	13	5
姫獨大	25	21	33	11	10

文系と理系の間にも差異が認められる。「あてはまる」は、文系 26%に対して、理系 25%と大差がない。しかし、「あてはまらない」は、文系 7%に対して、理系 16%と 2 倍以上の乖離を示している。これも、就職先の幅が狭い理系ならではの事情がうかがえる。

表 14 姫獨大文理別：親は「好きにきなさい」と言う（単位：%）

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
理系	25	16	29	14	16
文系	26	20	38	9	7

Q8：親は地元で就職することを勧める

高校生は、具体的な就職の話題を親とする時期ではない者が多いことが想像されるが、各校の結果に差異が認められる。たとえば、西高の「あてはまる」が 2%に対して、飾磨高のそれは 13%に上っている。「ややあてはまる」までを含めると、東高が 13%に対し、姫路高は 24%となっている。反対に、「あてはまらない」と「あまりあてはまらない」を合算した割合では、姫路高が 36%に対して、東高が 57%となる。親の地元志向の程度が校風に影響している可能性が考えられる。

大学生は各地から進学してきているため、ここで言う「地元」は必ずしも姫路市や播磨圏域を指しているわけではない。「あてはまらない」または「あまりあてはまらない」と回答した者が、「あてはまる」または「ややあてはまる」と回答した者を圧倒しており、親はあまり関与していない傾向がうかがえる。

姫獨大においては、理系の親の過半数は、あまり地元就職を勧めていないようである。

表 15 学校別：親は地元で就職することを勧める（単位：%）

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
西高	2	12	35	23	28
東高	3	10	30	20	37
南高	10	10	35	16	29
飾磨高	13	9	38	16	24
姫路高	12	12	40	12	24
琴丘高	8	10	33	14	35
県大	10	14	29	14	33
姫獨大	12	6	40	15	27

表 16 姫獨大文理別：親は地元で就職することを勧める（単位：％）

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
理系	15	2	31	23	29
文系	9	8	47	13	23

Q9：就職については親と意見が合わない

高校生は各校に違いが認められる。たとえば、「あてはまらない」と回答した割合は、最少の西高が 29%だったのに対して、最多の琴丘高は 64%を占めている。親や家庭の背景については本調査では尋ねていないため、結果との関連は不明だが、家庭環境の違いが反映されている可能性が考えられる。

大学生は、数%から 10%程度が就職について親と意見が合わないと回答しているが、成人していることもあってか、「あてはまらない」、「ややあてはまらない」、「どちらでもない」が圧倒的多数を占めている。

表 17 学校別：就職については親と意見が合わない（単位：％）

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
西高	5	6	32	28	29
東高	1	7	33	22	37
南高	0	1	29	21	49
飾磨高	3	6	31	22	38
姫路高	3	7	30	18	42
琴丘高	3	1	20	12	64
県大	4	6	31	24	35
姫獨大	5	3	29	20	43

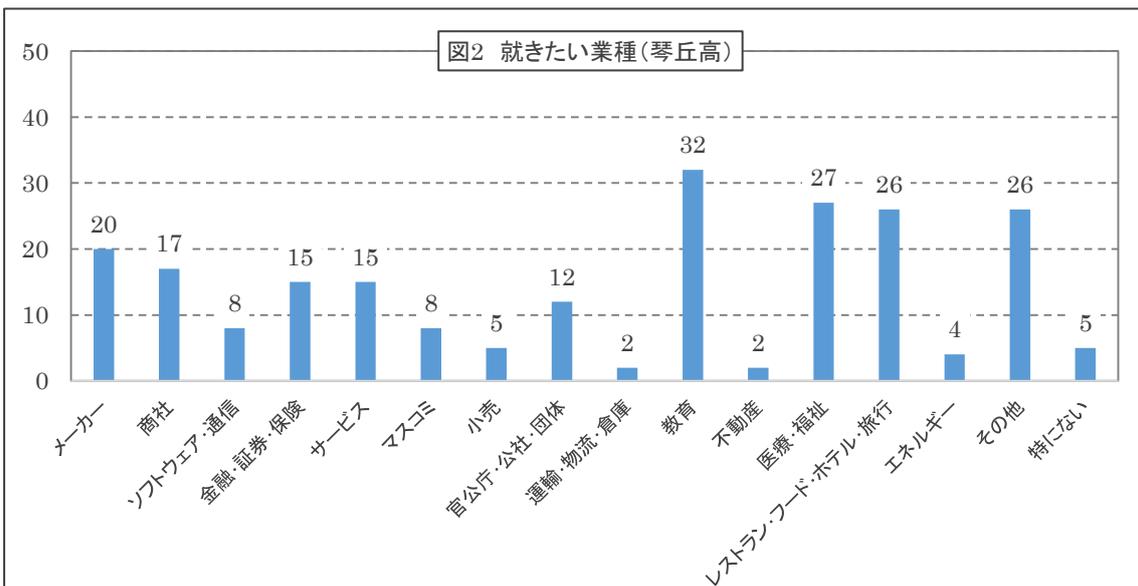
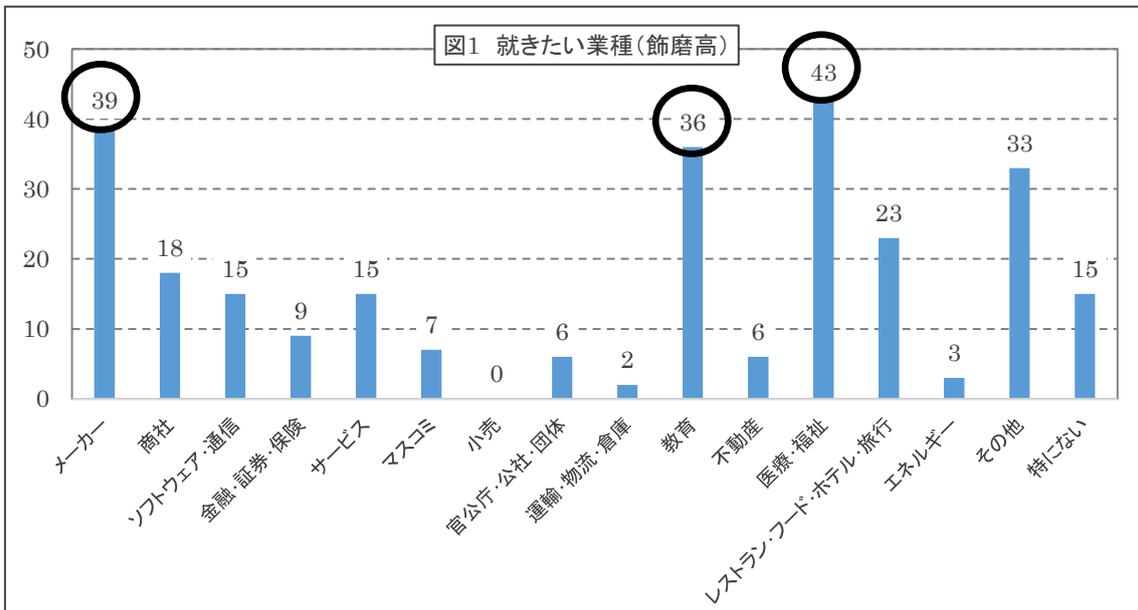
表 18 姫獨大文理別：就職については親と意見が合わない（単位：％）

	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
理系	2	4	27	14	53
文系	8	3	31	26	32

Q10：就きたい業種

高校生と大学生が、就きたいと考えている業種について問うた。「メーカー」、「商社」、「ソフトウェア・通信」、「金融・証券・保険」、「サービス」、「マスコミ」、「小売」、「官公庁・公社・団体」、「運輸・物流・倉庫」、「教育」、「不動産」、「医療・福祉」、「レストラン・フード・ホテル・旅行」、「エネルギー」、「その他」、「特にない」の16項目から、最大3つまで選択可としている。

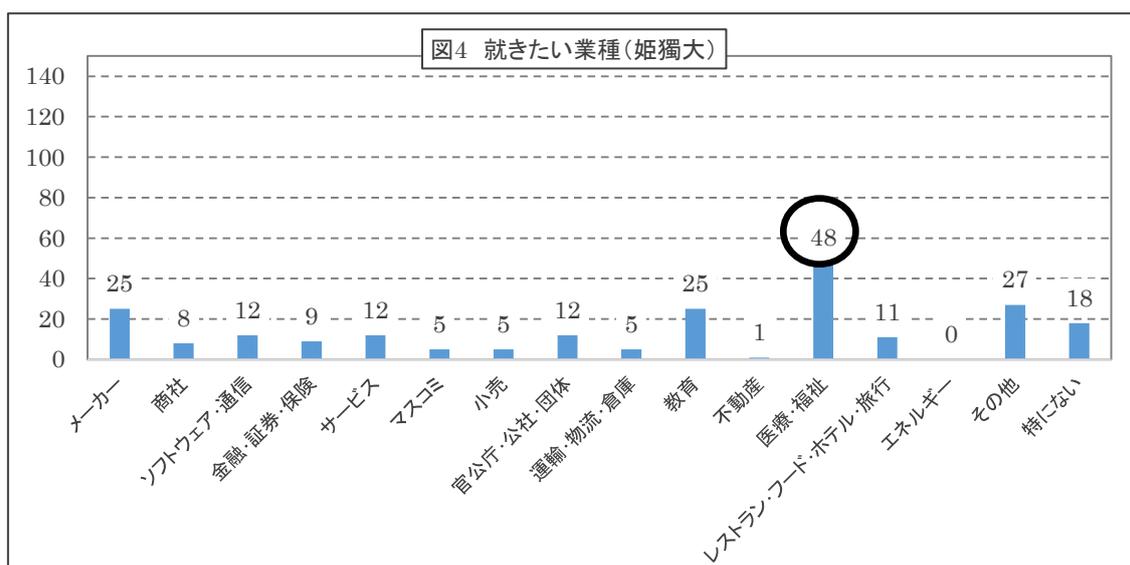
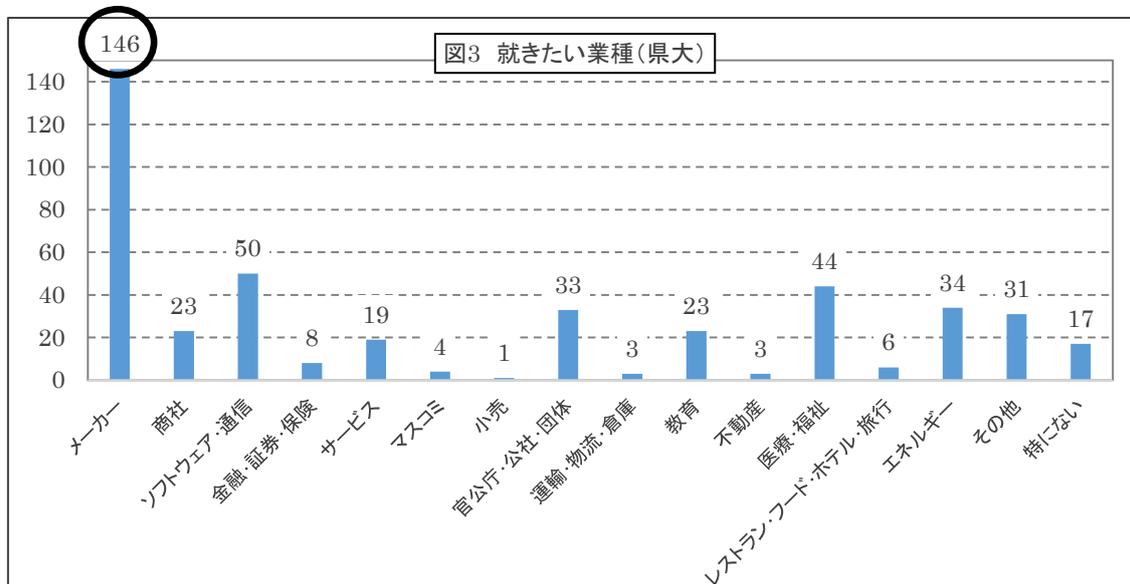
高校生は、各校それぞれに多少の分散はみられるものの、類似の傾向を示している。人気の業種は「メーカー」、「教育」、「医療・福祉」となっている。特徴的な分布を示している飾磨高の「医療・福祉」人気の高さは、健康福祉コースの影響だろう。琴丘高では、「レストラン・フード・ホテル・旅行」に高い人気が見られるが、国際文化科を擁する影響かもしれない。



県大では、146名から支持を集めた「メーカー」が圧倒的な人気である。これは、理学部と工学部に属する学生の回答としては自然である。以下、50名の「ソフトウェア・通信」、44名の「医療・福祉」と続き、「小売」や「運輸・物流・倉庫」、「不動産」は低調である。

姫獨大では、48名の支持があった「医療・福祉」が高い人気を示し、以下、27名の「その他」、25名の「メーカー」が続いている。これは、薬学部の学生が回答者に多かったことが理由だろう。「エネルギー」業種に就きたいという者は0名、「不動産」が1名となっている。

姫獨大の文系と理系で人気傾向を分析すると、文系では「その他」が21名、続いて「メーカー」の19名、「教育」の15名となっている。理系では、25名の「医療・福祉」が圧倒し、他の業種は一桁で並んでいる。これも、姫獨大の理系学生の専攻が薬学のみだったことに影響された可能性が高い。



Q11：就きたい職種

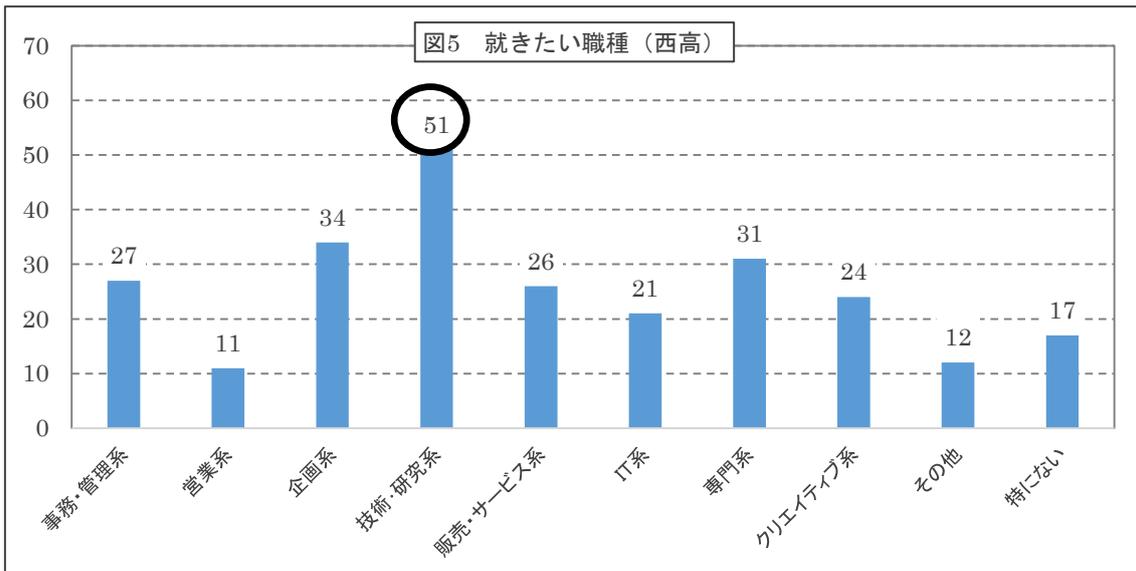
高校生と大学生が、就きたいと考えている職種について問うた。「事務・管理系」、「営業系」、「企画系」、「技術・研究系」、「販売・サービス系」、「IT系」、「専門系」、「クリエイティブ系」、「その他」、「特にない」の8項目から、最大2つまで選択可としている。

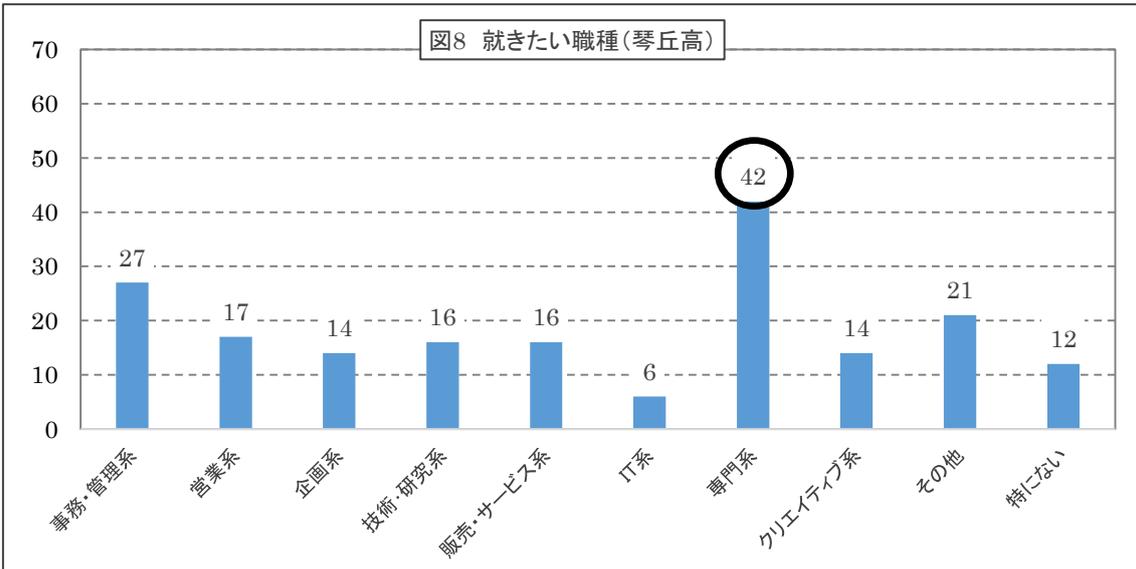
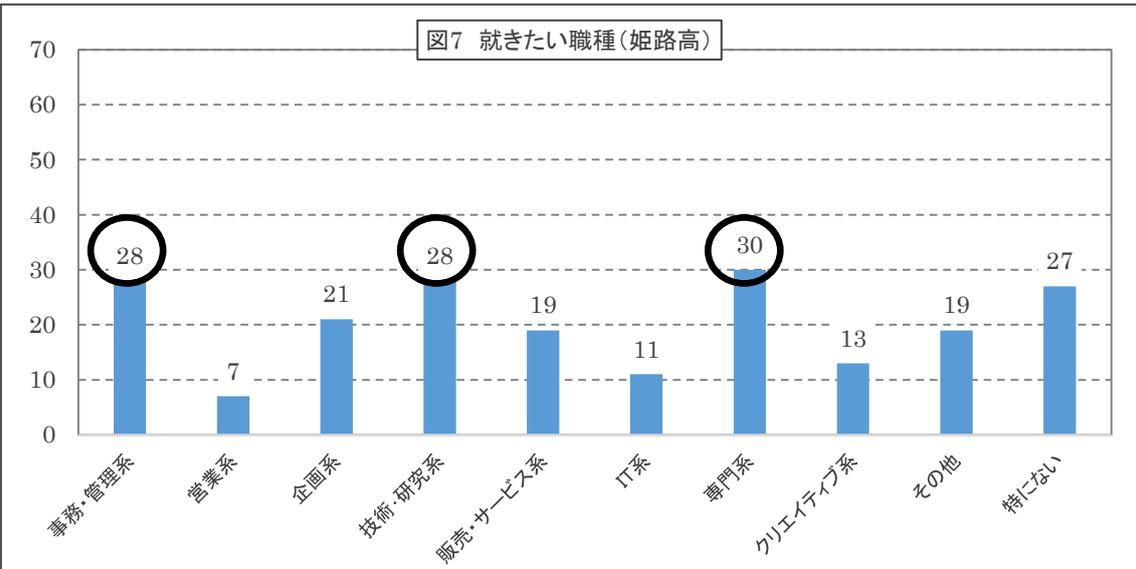
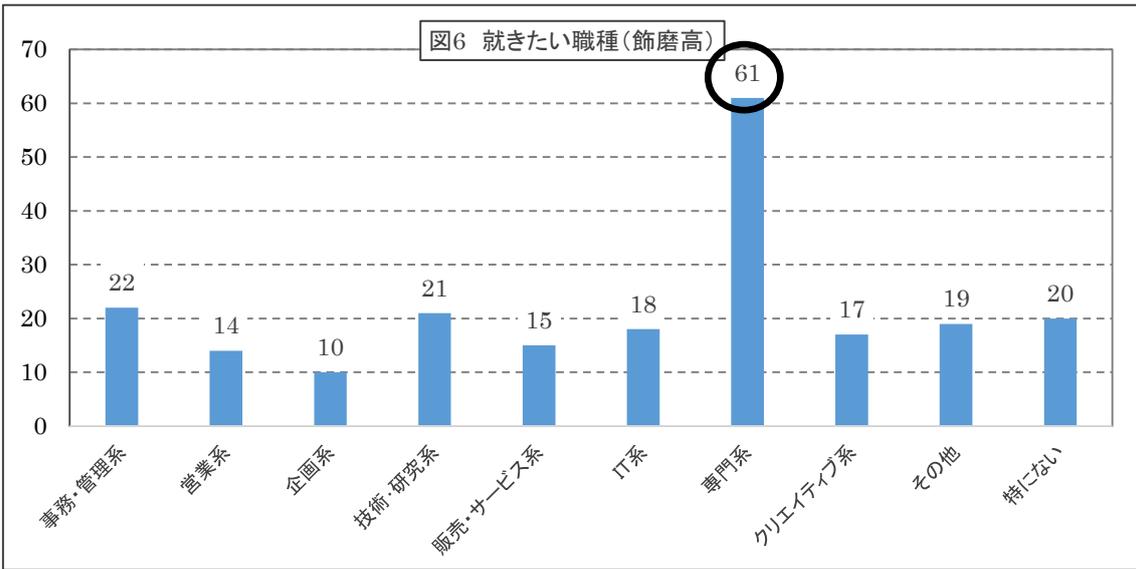
高校生は、各校の傾向が大きく分散した結果を示している。西高の人気職種は、「技術・研究系」の51名、「企画系」が34名、「専門系」が31名となっている。飾磨高は、「専門系」の61名が突出しているが、それ以外の職種は10名から20名程度で均衡している。健康福祉コースの影響と考えられる。南高と東高は、西高と類似の傾向を示しているものの、「技術・研究系」を希望する者の割合は西高ほど高くない。姫路高では、「専門系」、「技術・研究系」、「事務・管理系」の人気が高い。琴丘高では、「専門系」の42名が「事務・管理系」の27名を引き離して高い人気を示している。国際文化科の影響と考えられる。これらの違いは、各校の進路指導傾向や、卒業生の実際の進路を反映している可能性が考えられるが、専門的職種を希望する者の割合が高い傾向が共通してみられる。

大学生は、自身が専攻する内容が強く反映された結果を示している。県大の学生が就きたい職種として挙げたのは、「技術・研究系」の154名を筆頭に、55名の「専門系」、48名の「IT系」が続く。この3職種だけで66%を占めている。

姫獨大では、「専門系」が40名、「事務・管理系」と「特にない」がそれぞれ24名となっており、ここでも自身の専攻を活かせる職種を希望する大学生の姿が浮かび上がる。

理系の学生は、「専門系」や「技術・研究系」に就きたいという者が多く、文系の学生は、「事務・管理系」や「その他」、「特にない」と回答する者が多い。対照的な結果といえる。文系の場合、いわゆる「つぶしが利く」意識と、明確なキャリアパスを描きにくい実態が混在しているようである。





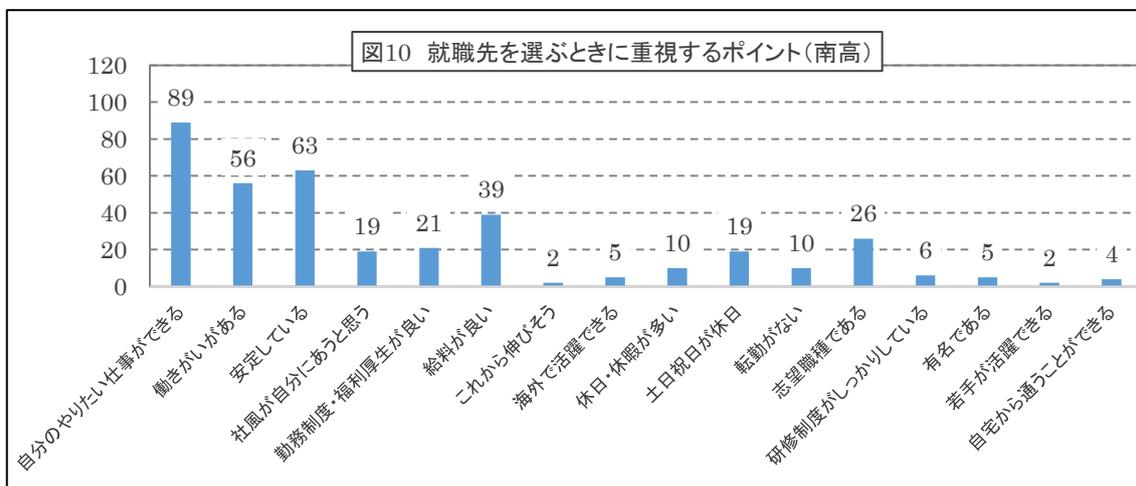
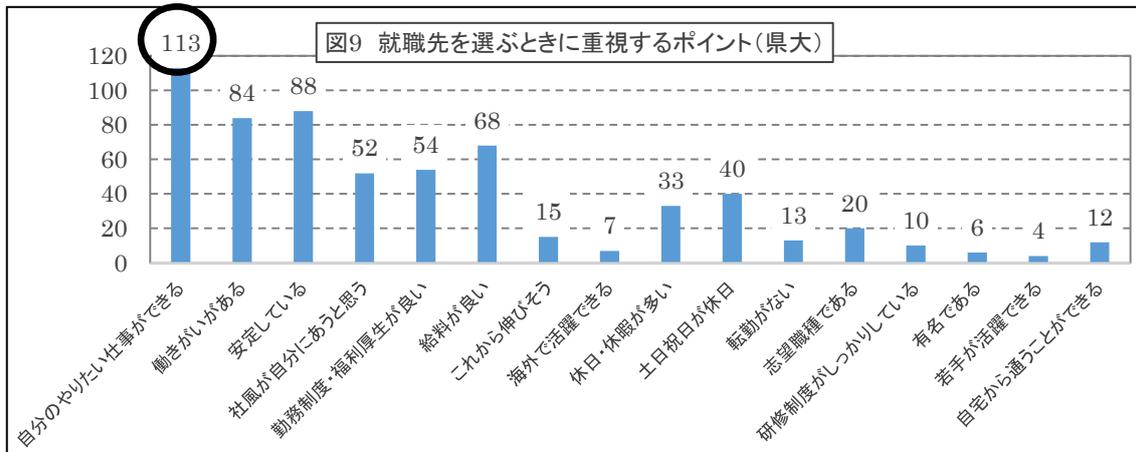
Q12：就職先を選ぶときに重視するポイント

高校生と大学生が就職先を選ぶときに重視するポイントについて問うた。「自分のやりたい仕事ができる」、「働きがいがある」、「安定している」、「社風が自分にあうと思う」、「勤務制度・福利厚生が良い」、「給料が良い」、「これから伸びそう」、「海外で活躍できる」、「休日・休暇が多い」、「土日祝日が休日」、「転勤がない」、「志望業種である」、「研修制度がしっかりしている」、「有名である」「若手が活躍できる」「自宅から通うことができる」の16項目から、最大3つまで選択可としている。

高校生も大学生も共通した傾向を示し、各校共通して「自分のやりたい仕事ができる」が高い回答率を示している。順位と回答率に差異はあるが、「働きがいがある」、「安定している」、「給料が良い」も重視されている。これらの項目以外を重視した者は少なく、企業の福利厚生面や将来性、認知度には高い関心を示していない。

県大と姫獨大のトップ2は共通しており、最も多くの回答者があったのが「自分のやりたい仕事ができる」であり、続いて「安定している」となっている。さらに、「働きがいがある」や「給料が良い」もポイントとして挙げられている。

ただし、文系と理系で分類してみると、文系が「自分のやりたい仕事ができる」を重視しているのに対して、理系が「安定している」を重視している点は興味深い。



Q13：企業にどんな制度があれば良いか

将来就職する際に、企業にどんな制度があれば良いかを自由回答で尋ねた。

広い意味での労働時間が高校生にとっての関心事といえ、全回答者の 6 割を占める結果となった。完全週休二日制や有給休暇の取得に言及した者が 76 名、産休・育休制度の充実を求める内容を記述した者が 66 名、残業ゼロや厳格な残業制限を求める者が 51 名に上った。これらの他にも、12 名がフレックスタイム制を求めており、労働時間への関心の高さがうかがえる。また、自由な服装を求める声や年功序列制を否定する記述も散見され、個人の生活の充実を希望すると同時に、企業に対する不信感を持つ高校生の姿が浮かび上がる。

大学生も高校生と同様の傾向を見せたが、結婚がより現実的な年齢に近づいていることもあってか、産休・育児に関する希望を述べた者が最多で 27 名、休暇に関する要望の 20 名、そして残業の制限が 10 名と続く。海外留学制度や資格支援制度といった具体的な制度を希望する者も多かった。

Q14：卒業後の進路予定

高校生と大学生が、今通っている学校を卒業した後の進路予定について尋ねた。「播磨圏域で就職」、「播磨圏域で進学」、「兵庫県内（播磨圏域外）で就職」、「兵庫県内（播磨圏域外）で進学」、「兵庫県外で就職」、「兵庫県外で進学」の 6 項目から 1 つを選択可とした。

高校生は、ほとんどが進学を予定している。全国的な進学率と比較しても、非常に高い進学意欲が認められる。進学先は、大学、短期大学、専門学校を想定していることもあり、各校の傾向に分散がみられる。西高と東高は、「兵庫県外で進学」を予定している者が多数を占めているのに対して、飾磨高と琴丘高は、「播磨圏域外の兵庫県内での進学」予定者が多数を占めている。「播磨圏域で就職や進学」を予定している者は少なく、回答者全体の 10% のみである。

県大の学生は、卒業後には「兵庫県外で進学」を予定していると回答した者が最も多く、33%に上った。これは、大学院への進学を意図しているものと考えられる。次に、25%が「兵庫県外で就職」する予定にしている。続いて、18%が「播磨圏域外の兵庫県内で就職」を予定し、13%が「播磨圏域外の兵庫県内で進学」という。播磨圏域で就職あるいは進学を予定する者は、合算してもわずか 11%だった。

姫獨大の学生は、就職予定者が 93%に対して、進学予定者は 7%である。「兵庫県外で就職」しようとする者が 43%、「播磨圏域外の兵庫県内で就職」しようとする者が 32%、「播磨圏域で就職あるいは進学」を予定する者は、合算して 19%である。文系と理系の進路傾向に大きな差はなく、高校生と同様に、播磨圏域に残ろうとする者は少ない。

表 19 学校別：卒業後の進路予定（単位：％）

	播磨圏域 で就職	播磨圏域 で進学	兵庫県内 （播磨圏域 外）で就職	兵庫県内 （播磨圏域 外）で進学	兵庫県外 で就職	兵庫県外 で進学
西高	0	3	1	27	1	68
東高	0	3	3	26	1	67
南高	2	9	2	39	2	46
飾磨高	4	14	2	52	1	27
姫路高	3	10	3	39	2	43
琴丘高	2	11	0	52	3	32
県大	5	6	18	13	25	33
姫獨大	18	1	32	4	43	2

Q15：将来働くことになったときの就職先（地域）

高校生と大学生が将来働くことになったときの就職先（地域）について、考え方が近いものを問うた。「実家から通えるところに就職したい」、「地元（出身県）で就職したい」、「出身県でなくても良いが近隣県（近畿圏内）で就職したい」、「東京で勤務できるところに就職したい」、「そのほか特定の地域で就職したい」、「勤務地にはこだわらない」の6つから1つを選択可とした。

高校生は、飾磨高を除いて、「勤務地にはこだわらない」がトップである。「近隣県（近畿圏内）」や「地元（出身県）」志向も高く、多くが兵庫県出身者のため、関西圏で就職したい者が多いといえる。飾磨高では、「実家から通えるところ」を望む者が相対的にも高く、非常に地元志向が高い高校といえる。

県大では、37%の「近隣県（近畿圏内）」がトップで、29%の「勤務地にこだわらない」が続いている。

姫獨大では、「地元（出身県）」が31%とトップで、23%の「勤務地にこだわらない」が続く。ただし、ほぼ同数の20%が、「実家から通えるところ」を希望している特徴がある。理系は「近隣県（近畿圏内）」を希望する者の割合が高いのに対して、文系は「地元（出身県）」を希望する者が多い。

表 20 学校別：将来働くことになったときの就職先（地域）（単位：％）

	実家から通えるところに就職したい	地元（出身県）で就職したい	出身県でなくても良いが近隣県（近畿圏内）で就職したい	東京で勤務できるところに就職したい	そのほか特定の地域で就職したい	勤務地にはこだわらない
西高	5	13	26	10	10	36
東高	7	10	25	11	8	39
南高	7	27	19	8	2	37
飾磨高	18	27	30	3	3	19
姫路高	11	19	24	4	2	40
琴丘高	8	21	30	5	5	31
県大	14	11	37	6	3	29
姫獨大	20	31	18	4	4	23

表 21 姫獨大文理別：将来働くことになったときの就職先（地域）（単位：％）

	実家から通えるところに就職したい	地元（出身県）で就職したい	出身県でなくても良いが近隣県（近畿圏内）で就職したい	東京で勤務できるところに就職したい	そのほか特定の地域で就職したい	勤務地にはこだわらない
理系	26	15	34	4	4	17
文系	19	38	7	4	4	28

Q16：姫路市内での就職意思

将来働くことになったとき、姫路市内で就職したいかどうかを尋ねた。本調査において関心度の高い質問である。「姫路市内で就職したい」、「できれば姫路市内で就職したい」、「あまり姫路市内で就職したくない」、「姫路市内で就職したくはない」、「姫路市内で就職したくはない」、「わからない」の5択から1つを選択可とした。

高校生は、共通して「わからない」がトップだった。しかし、西高や東高では、「姫路市内で就職したくない」者が多く、対照的に、飾磨高や南高では、「姫路市内で就職したい」者が多い。

県大では、「わからない」と回答した者が最多の45%だったが、「姫路市内で就職したくはない」と明確に回答した者が26%、消極的ながら「あまりしたくない」と回答した者が

24%に上った。これに反して、「したい」は2%、「できればしたい」が3%と、圧倒的に少数である。

姫獨大でも同様の傾向がみられ、将来の居住地についてはあまり考えたことがない姿がみうけられる。

表 22 学校別：姫路市内での就職意思（単位：％）

	姫路市内で就職したい	できれば姫路市内で就職したい	あまり姫路市内で就職したくない	姫路市内で就職したくない	わからない
西高	5	19	16	24	36
東高	1	13	23	17	46
南高	9	30	8	13	40
飾磨高	12	35	10	7	36
姫路高	10	20	11	11	48
琴丘高	10	17	15	11	47
県大	2	3	24	26	45
姫獨大	9	9	15	20	47

表 23 姫獨大文理別：姫路市内での就職意思（単位：％）

	姫路市内で就職したい	できれば姫路市内で就職したい	あまり姫路市内で就職したくない	姫路市内で就職したくない	わからない
理系	4	6	15	33	42
文系	12	11	17	9	51

Q17：姫路市内で就職したい或いはしたくない理由

Q16で、姫路市内での就職意向を尋ねたが、Q17では、その回答に至った理由を自由回答で問うた。すなわち、姫路市内で就職したい理由または就職したくない理由が記述されている。

「姫路市内で就職したい」理由を回答した高校生67名のうち、18名が自宅から通勤できる利便性を挙げ、10名が慣れた環境で過ごせる安心感といったメリットを述べている。地元への貢献を理由とする者も散見された。大学生は4名のうち、3名が自宅からの利便性を挙げ、1名は姫路市の住みやすさを理由としている。

「できれば姫路市内で就職したい」理由を回答した高校生169名のうち、69名が自宅から通勤できる利便性を挙げており、「姫路市内で就職したい」という者よりも高い割合を示している。慣れた環境で過ごせる安心感を表現した者は25名だった。しかし、「姫路市内

で就職したい」と強い意思を示した者に比べて、他所への不安や移動コストの削減といった消極性を感じさせる表現が多い印象である。ただし、言い換えれば、就職先の条件が悪くなければ、姫路市内で就職したいとも理解することができ、地元就職を促進するためには、このような意向を持つ人々をターゲットとして、さらに研究する価値があるだろう。大学生は、7名のうち、3名が利便性を挙げている。

「あまり姫路市内で就職したくはない」理由を回答した高校生 91名の理由は、他の街を経験したいという描写が著しく 53名に上った。都会への憧れを述べる者も多く、姫路市内のデメリットというよりも、他所へ出ることのメリットを挙げている。また、自立心をはかかわせる表現もみられた。大学生 54名は、14名が自分の出身地（姫路市外）での就職を希望していることを理由に挙げている。また、特筆すべきは、「治安が悪い」「姫路にいたいと思わない」と、姫路市での暮らしを10名が否定的に表現していることである。

「姫路市内で就職したくはない」と姫路市を去ろうとする理由を述べた高校生 94名は、「もっと都会に行きたい」、「広い視野を持ちたい」といった好奇心と、「姫路市内にやりたい仕事がない」、「田舎は嫌」、「祭が苦手」といった積極的に姫路市を忌避する意識が混在している。大学生 67名のうち、約 20名が出身地での就職希望を理由に挙げている。その他には、「田舎だから」、「やりたい仕事がない」、「不良が多い」、「口が荒い」といった否定的な内容が並んでいる。

「わからない」と回答した理由を述べた高校生 194名のうち、約 80名が就職先の地域にこだわりを持っていないとの表現をしている。しかし、「就職できればどこでも良い」「どこでもいい」といった、やや投げやりな表現と、「勤務先にこだわりがない」といった表現には、意思の違いが感じられる。その他の理由には、まだ将来が確定していないことや自分の進路次第だとする者が多かった。大学生 77名のうち、約 40名が就職先の地域にこだわりを示していない。その他には、「姫路のことをよく知らない」といった回答があった。

Q18：姫路市の生活環境で好きな点

姫路市の生活環境で好きな点とその理由を自由回答で尋ねた。Q16の姫路市内で就職したいかどうかの意向と関連する理由も少なからず挙げられているが、姫路市に対する肯定的な意見が描かれている。

高校生は、自然災害が少ない点を挙げた者が多く、都会過ぎず田舎過ぎない点を評価する声も多い。新幹線をはじめとする交通の利便性や姫路城や店舗、施設が比較的充実している割に、自然環境が豊かな点も魅力とされている。

大学生は、姫路駅周辺の商業施設の充実や交通の利便性や、地方都市の程よい加減の良さを指摘する声が多い。同時に、自然の多さを指摘する者も多かった。

Q19：姫路市の生活環境で嫌いな点

Q18 に対して、姫路市の生活環境で嫌いな点とその理由を自由回答で尋ねた。Q18 と同じく、Q16 に関連する理由も含まれているが、姫路市に対する否定的な意見が並ぶ。

ポイ捨てといったゴミの問題や、騒音問題、運転や列車内の荒いマナーや治安の悪さが指摘されている。また、バスの利便性や都市計画を批判する記述も散見された。

ここで注目すべきは、姫路市をふるさとと知覚している者と、姫路市外をふるさとと知覚している者の間には、明らかに異なる傾向がみられる点である。姫路市をふるさととする者は、交通の利便性や施設といったハード面の不満を述べる傾向が強く、姫路市外をふるさとと知覚する者は、治安やマナーといったソフト面の不満を指摘する傾向が強い。

総括

以上の結果から、姫路市内の高校や大学に通学する若者の進路意識について、いくつかの特徴を指摘することができる。以下に、主な知見を列挙する。

- 将来やりたい仕事があり、就職先を選ぶときに重視している。
- 国際的な仕事の希望者が多い学校とそうではない学校がある。
- 専門性の高い仕事をしたい若者が多く、特に理系では顕著。
- 独立起業志望者は少ない。
- 仕事をする自分がイメージできない若者は少なくない。
- 親の干渉は少ない。
- 業種・職種によって人気度に大きな差がある。
- 労働時間、休暇制度、産休・育休制度に関心が高い。
- 播磨圏域で就職や進学を予定する若者は少数。
- 進路決定には、インターネット、先生、親・保護者を情報源にする。
- 勤務地にはこだわらない若者が多い。
- 姫路市内での就職希望は、「わからない」がトップだが、学校によって希望／拒絶傾向は異なる。
- 姫路市内での就職希望者は、自宅通勤の利便性、慣れた環境での安心感、他所への不安、移動コストの削減を訴えている。
- 姫路市外での就職希望者の多くは、他の街を経験したいという願望や都会へ憧れを訴えているが、姫路市内での暮らしに不満を漏らす者もいる。
- 姫路市の魅力は、自然災害が少ない点や地方都市の程よいバランス。
- ふるさとが姫路という若者はハード面（交通や都市計画）に不満があり、ふるさとが姫路ではない若者はソフト面（マナーや治安の悪さ）に不満がある。
- ふるさとが姫路という若者には、姫路市内での就職希望者が少なくない。
- 就労意欲が高い若者に、姫路市内での就職希望者が少なくない。